

藤田 綾 (Fujita Aya)

オックスフォード大学 社会介入学部 博士課程

”ON2022” イベント感想

ON2022 では、奨学生の皆様が世界各国でされてきた個人的な体験を、共感したり驚いたりしながら聞かせていただきました。政治、経済、産業、ビジネス、教育・科学・研究、福祉、家事・育児等、幅広い分野におけるジェンダーギャップを、国際比較をしながら考える良いきっかけになりました。

私が勉強している社会政策研究では、主にマクロまたは大規模な統計データを分析や判断のエビデンスとして扱います。個人個人が「見た・感じた」ジェンダーギャップの主観的な体験は、単体では強固なエビデンスとはみなされないかもしれません。しかし、そんなミクロなジェンダーギャップこそが、その人にとっての尊厳や生活、ひいては人生に関わるもので、ひとりひとりにとっての大事な真実であることを政策立案者や政策研究者は忘れてはならないのだと思います。

そして、経験は多様です。ジェンダーギャップの諸問題に関して、自分にはどれも無関係だと思う人もいれば、深刻に悩む人もいます。無関係だと思う人にとって苦悩は想像し難いかもしれません。しかし、私はすべての人が当事者なのではないかと思います。私は、自分にとって深刻な問題でなかったとしても、友人や世界の隣人たちが困っているギャップに対して想像力を働かせ、行動を起こせる人でありたい。ダイバーシティが尊重される社会づくりに微力ながら貢献していきたいと思います。

皆様のご発表からたくさん学ばせていただきました。心より感謝を申し上げます。

以上